

Safer Future ~ 安全な未来へ ~

# 運輸安全委員会ニュースレター

## Japan Transport Safety Board Newsletter

- 《最終報告》福知山線列車脱線事故調査報告書に関わる検証結果について…………… 1
- 運輸安全委員会をめぐる動き…………… 2
- 事故等調査事例（航空・鉄道・船舶）…………… 3
- 事故等調査報告書の公表 / 事故・重大インシデント調査情報…………… 14

### 《最終報告》福知山線列車脱線事故調査報告書に関わる検証結果について

平成17年4月25日に発生したJR西日本福知山線列車脱線事故の調査過程において、航空・鉄道事故調査委員会（事故調）の当時の委員が、JR西日本からの働きかけに応じて、調査状況等の情報漏えいを行っていたことが判明し、平成21年9月に公表しました。これにより、平成19年6月に公表した事故調査報告書（最終報告書）に対する国民の信頼を大きく損なう事態となり、当時の前原国土交通大臣から、事故調の業務を継承した当委員会に対し、最終報告書の信頼性を徹底的に検証するよう指示がありました。

平成21年12月、当委員会は検証会合を設置し、ご遺族・被害者、有識者等、計12名の方に「福知山線列車脱線事故調査報告書に関わる検証メンバー」としてご参画をお願いし、約1年半にわたって、検証作業が続けられてきました。

平成23年4月15日、第6回検証メンバー会合において、「JR西日本福知山線事故調査に関わる不祥事問題の検証と事故調査システムの改革に関する提言」と題する検証報告書が取りまとめられ、後藤委員長に提出されました。

検証メンバーから、検証報告書の中で、情報漏えい等の事実関係の検証結果から、最終報告書に影響がなかったとの評価をいただき、更に今後の事故調査システムや当委員会のあり方について提言がなされています。これに対し、後藤委員長から、検証メンバーの方々へ長期にわたる検証作業について感謝の意を表するとともに、当委員会が国民に信頼されるより良い事故調査機関となるよう改革に努めていくとの決意が述べられました。

検証メンバーは、運輸事故の再発を防止し、より安全な社会を構築するために、運輸安全委員会の今後のあり方について、10項目にまとめた提言書を大畠国土交通大臣に提出しました。



第6回検証メンバー会合の様相



大畠国土交通大臣（右）へ提言書を手交する検証メンバー座長の安部誠治氏（左）

#### <検証メンバーが提言書にまとめた10項目>

1. 事故調査の透明性の確保
2. 被害者への情報提供の充実等
3. 事故調査関係資料の公開の推進
4. 組織問題に踏み込む等事故調査の充実
5. 事故調査と刑事捜査との関係
6. 事故調査の範囲と組織のあり方
7. 委員人事のあり方について
8. 委員の守秘義務違反に対する罰則を設けることについて
9. 予算・人員の確保と研修等の充実
10. 委員会の業務改善体制について

#### 柳田先生から講演いただきました

平成23年5月23日、検証メンバーの柳田邦男氏から、当委員会職員に対して「事故調査システムの改革に関する提言 ―検証チームが目指したもの―」と題して、講演いただきました。

講演では、検証作業で苦勞された点などを交えながら、今後の事故調査機関のあり方について有益なお話をいただき、地方事務所を含めた全職員が熱心に聞き入っていました。



当委員会では、本検証による提言などの結果を踏まえて改革に努めるとともに、その改革が適切なものとなっているかについて有識者による指導を受けながら、必要な措置を講じてまいります。

福知山線脱線事故調査報告書に関わる検証の過程と結果は当委員会ホームページで公表しております。

<http://www.mlit.go.jp/jtsb/fukuchiyama/fukuchiyama.html>